

加賀の潜戸

◎ 神話と神秘の郷・島根半島の景勝

遊覧船で巡る神話の洞窟



JRで

岡山—松江 …… 140分 (スーパーやくも)



クルマで

米子自動車道・米子ICより …… 90分
 米子鬼太郎空港より …… 60分
 出雲縁結び空港より …… 60分
 JR松江駅より …… 40分



バスで

JR松江駅よりバスにてマリンゲートしまね下車後、島根コミュニティバスに乗り換えマリンプラザ前下車。

一般社団法人

加賀潜戸遊覧船

マリンプラザしまね 島根県松江市島根町加賀6120-14

TEL 0852-85-9111 FAX 0852-85-3800

http://kukedo.com

潜戸観光遊覧船



「新潜戸」と「旧潜戸」をめぐる遊覧船です。潮風を感じながら約50分の船旅が楽しめます。

潜戸周遊便 (旧潜戸～新潜戸)



発着場 (マリンプラザしまね)

乗船料金

平成26年4月より適用

項目	料金
個人	大人 (中学生以上) 1,500円
	小人 (小学生) 700円
団体 (15名以上)	大人 1,350円
	小人 630円

時刻表

1	09:20	5	13:20
2	10:20	6	14:20
3	11:20	7	15:20
4	12:20	8	16:20

- 6歳未満の方は大人1名につき2名様まで無料
- 幼児団体の場合は小人料金を適用

※海上の状況により旧潜戸のみの運航となる場合があります。

※海上・天候・運航状況等により変更する場合があります。

運航期間 **3月▶11月** (3月と11月の運行についてはお電話にてお問い合わせください。)

所要時間 約**50分**

乗船定員 ① 25名×1隻
 ② 31名×1隻 (最大56名)

◎ご利用に際して
 団体でご利用の際は事前にご予約をお願いします。
 天候が悪い時及び海上時化の場合は欠航となります。

ご乗船の際は、お電話にて当日の運航状況をご確認の上、お越し下さい。当社ホームページでもご覧頂けます。

潜戸案内

小泉八雲が魅入られた神話の郷

神話が伝わる
海の大洞窟「新潜戸」
賽の磧のある「旧潜戸」
日本海の潮風を感じながら
島根半島の絶景
「加賀の潜戸」を巡る
旅をお楽しみください。



新潜戸

神話に思いを馳せて



新潜戸は加賀港湾の突端に切り開いた高さ40m、長さ200mの海中の洞窟です。佐太神社の大神(佐太大神)である猿田彦命(さるたひこのみこと)の誕生地として伝えられ、神崎内室、屏風岩、御盥岩、御釜口、的島、千畳敷などの地名が今もなお残っています。出雲国風土記に、加賀の地名発祥にまつわる話が記されています。

大神誕生の時、母神である支佐加比売命(ささかひめのみこと)が大切にしていた弓矢が波にさらわれ流されてしまい、「失せた弓矢よでてこい」と祈念されると金の弓矢が流れてきた。支佐加比売命はそれを取り上げ「暗き窟かな」と申されて、金の矢を放たれ岩を射通された。その際、射通された東口から光が射し込み明るく洞内が光り輝いたため、「あ、かかやけり」と申されたのがここ「加加(かか)」の地名のはじまりで、後に「加賀」と改められた。

射通された金の矢は、東の岩戸を射抜き、勢いあまると沖の島まで射通し穴があり、成長された猿田彦命がこの穴を的に弓の稽古をしたので、この島は的島とよばれています。また、新潜戸の西口から入ると、すぐ左にある白木の鳥居が建つ平らな岩は誕生岩とよばれ、佐太大神のお産まれになった場所であり、支佐加比売命をお祀りした潜戸大神宮のあった場所といわれています。

GUIDE OF KUKEDO

旧潜戸

やすらかな魂を感じて

加賀築港岸壁から正面に大きな洞穴が見えます。これが、年端もゆかぬのに生命絶えた幼子の魂の集まる場所といわれ、苔むした小石積みし塔が無数に立ち並ぶ「賽の磧(さいのかわら)」旧潜戸です。新潜戸が神様の潜戸であるのに対し、旧潜戸は「仏潜戸(ほとけくけど)」つまり、仏様の潜戸で、昔は「古潜戸(ふるくけど)」とよばれていました。

二つや三つや四つ五つ、十にも満たない幼子が、西院(さい)の河原に集まりて、父恋し、母恋し、恋し、恋しと泣く声はこの世の声とはこと変り悲しさ骨身を通すなり。

その幼子が泣きながら河原の石を集めては塔を積みあげると伝えられ「一重積んでは父のため、二重積んでは母のため」と一心不乱に石を積んでいると、どこからか鬼どもが現れ、せつかく積んだ塔を片っ端から崩していく。すると、お地蔵様が現れて鬼どもを追い払い、幼い亡者を助けて下さるといいます。まだ朝日の昇らぬうちに賽の磧に行くと、崩れてしまった石の塔は積みなおされ、夜の間に石を積んだ子どもの足跡が片足のみ点々と残っているが、朝日が昇るとその足跡はいつしか消えてなくなるといわれています。また、石の塔は、時化などで全て崩れても、子どもたちが泣きながら一晩中かけて積みなおすなど伝説、伝承は数多くあります。



冠島



岩石が波によって浸食されたり、岩盤が隆起するなどしてできた岩礁である。烏帽子の形がその名の由来。若狭湾にも同名の島があり、その島もまた神話の舞台である。



象岩

波の浸食によってできた自然の奇岩。今にも動き出しそうなその姿は海にたたくむ象のようである。干潮時には徒歩40分程度で歩いて渡ることもできる。



的島

その名の通り島が射抜かれたような形をしている。新潜戸西口から東口、的島の穴まで一直線に見える光景は圧巻で、まさに潜戸神話そのものである。



旧潜戸トンネル

遊覧船の発着場から賽の磧へ続くトンネル。全長は約130mある。中には6体のお地蔵様が安置されており、亡くなった幼子の魂と訪れる人々を見守っている。



桂島

周囲700mの島。江戸時代は北前船の寄港地であり、また松江藩の物資の補給港でもあったため、桂島と柳島を繋ぐ築堤工事が行われた。現在は海水浴場や遊歩道が整備されている。



西の浜

桂島を臨む小さな浜。島根町の夕日スポットの一つで、雄大な日本海に沈む夕日と島々のコントラストは絶景。5月～7月頃には「海ほたる」を見ることもできる。